



個別検査

# 胃管内視鏡検査



## 早期に食道がんや 胃がんを発見するために

胃管内視鏡検査は、内視鏡という細い管の先端にカメラが付いた機器を用いて上部消化管(食道・胃・十二指腸)の内部を直接観察する検査です。

炎症・潰瘍・ポリープ・腫瘍などを詳しく観察することができます。病変が見つければ、その場で組織を採取することもでき、確定診断に必要な生検病理診断をすることができます。

### この検査でわかる主な病気

- 逆流性食道炎
- 食道炎
- 萎縮性胃炎
- 胃ポリープ
- 胃潰瘍
- 胃がん

### こんな方にお勧めします

- ピロリ菌陽性の方
- バリウム検査の異常を指摘されたことがある方
- ピロリ菌除菌後の方
- ご家族に胃がんの既往がある方

### POINT

当センターでは、比較的苦痛が少ない細径スコープを使用し、経鼻内視鏡検査を主にしています。鼻から挿入する内視鏡は直径約5～6ミリメートルで、口から挿入する内視鏡の約半分の太さです。

### 胃がんのリスクをCHECK!(オプション検査:胃がんリスク判定)

胃がんリスク層別化検査(ABC検診)は「ピロリ菌感染の有無を調べる検査(HP)」と「胃粘膜の萎縮度を調べる検査(PG)」を組み合わせ、胃がんになるリスクを分類する検査です。ABC判定区分は下記の表のとおり、A～D群に分類され、今後の管理・対処法が決まります。

判定	A	B	C	D
説明	ピロリ菌感染・胃粘膜萎縮はいずれも否定的で、胃がんになる危険性が比較的低いと考えられています。	ピロリ菌に感染している疑いがあります。胃粘膜の萎縮は軽度ですが、胃潰瘍・胃がんになる危険性を否定できないので、ピロリ菌を除菌し定期的に画像検査等を実施することが望ましいです。	ピロリ菌感染および萎縮性胃炎があります。胃がんになる危険性があるので、ピロリ菌を除菌し定期的に内視鏡検査を実施することが望ましいです。	高度の胃粘膜萎縮がありピロリ菌が住めない状態です。胃がんになる危険性が相当に高いので、年1回以上、内視鏡検査を行い注意深く経過を観察する必要があります。
HP	—	+	+	—
PG	—	—	+	+

下記の方は、ABC検診を受診しても正確な判定結果が出ないため、検査実施対象外となります。

- ① ピロリ菌の除菌治療を受けたことがある方
- ② プロトンポンプ阻害薬(PPI)服用中の方
- ③ 胃の切除手術を受けたことがある方
- ④ 腎不全または腎機能障害がある方